

令和2年度一橋大学学位記授与式 祝辞

令和3年3月19日
国連事務次長補 兼
国連開発計画（UNDP）危機局長
岡井 朝子

皆様、ご卒業、心よりお祝い申し上げます。

この一年、コロナ禍により、私たちの生活は一変しました。皆さんの中には将来に不安を感じている人もいるのではないかと心配しています。今日はそんな皆さんを勇気づけ、未来に希望をもって欲しいとの思いでお話しします。

私のいる UNDP は持続可能な開発目標、SDGs の推進をミッションとしている国連の機関です。UNDP が世界の人間開発指数の計測を 30 年前に始めてから、去年はじめてマイナス成長となり、人類の進歩が逆行したのです。SDGs 達成期限の 2030 年までにはあと 9 年。この 9 年をどう過ごすかによって、地球の未来が変わる、今、そんな岐路に私たちはたっています。

コロナ禍では、最も立場の弱い人々が最も影響を受けています。格差、差別は、世代を超えて引き継がれ、それがさらなる社会不安、暴動、紛争を呼び、世界は混迷を深めています。日本でも近年の極端化する気候と災害により大きな被害を被っていますが、気候変動の影響はいずれ日本の今の豊かな食生活も持続できないようにしてしまうでしょう。人類の活動が地球への負荷を高め、もう今の社会経済システムは持続可能ではなくなっています。

皆さんが今後どのような進路を歩まれようとも、ニューノーマルに順応していかなければなりません。ですが、順応するだけでよいのでしょうか。どうせ新しい日常が来るのであれば、もっと住みやすい人間らしく生きられる社会に変えていこう、そうは思いませんか。

一橋大学は、世界の諸課題を解決する社会イノベーションのための知識創造を使命とし、意欲的に取り組んでいるとお聞きしています。その一橋で学ばれた皆さん方に、3つのお願いがあります。

お願いの第1点目。何も変わらないと諦めたり、これはこういうものだとはなから決めつけ、思考を停止していないか、今一度立ち止まって自問して下さい。関連しているので、お願いの第二点目を続けます。おかしいと思ったことに声をあげ、果敢に大きな問題に取り組んで欲しい、ということです。

私は、日本でもっと若い世代が柔軟な発想で社会課題について発言していくべきと思っています。

日本社会は、年功序列が根強く残る上、回りを付度し、前例主義に陥りがちです。硬直した社会、旧弊を打破するには、ものすごいエネルギーと勇気がいります。

また、SDGsの目指す「インクルーシブ」(Inclusive)で「誰も取り残さない」(Leave No One Behind)社会というのは、実は社会に根差す無意識のうちの偏見に正面から向き合えないと実現できません。例えばジェンダー平等。コロナ禍では、雇用の危機にさらされやすい非正規労働の比率が多い女性に、家事の負担、暴力の被害が重なり、女性は不均衡に過大に苦境にさらされています。にもかかわらず意思決定の場には女性は十分参画できていません。日本では社会の男女の役割についての無意識の刷り込みが強く、女性側から自らの可能性や発言に制限をかけてしまっている面もあるのではないのでしょうか。国連では、男性のみに偏った討論会や会議は開催してはいけないことになっています。女性であれ障がい者であれ、まず格差が生じている側に発言の機会をつくり、意思決定の場に含める、そういったところから始まります。

若い皆さん、女性の皆さんが声をあげる、そして、上の世代は、多様な意見をくみ取り、若者、女性にもっと決断権を与える文化をつくる、双方向の取り組みが必要と思います。

さて、皆さんの願いの三点目は、ばらばらにある点を線、面でつなぐこと、それを心掛けてほしいということです。

もう一つの分野での一つの解、あるいは単体としての技術が社会課題をすべて解決するなんてことはありません。複雑に絡み合う諸課題を多分野まとめて解決するには総合的なアプローチが必要です。でも、それをつなげるには、意図的な努力が必要です。私のいる UNDP では、17 ある SDGs の一つ一つを個別に追及するのではなく、いくつものゴールに相乗効果をもたらす加速要因を特定し、イノベーションと様々なパートナーの力をあわせて規模の拡大を目指しています。

例えば、コロナ禍の中、リモートワークが可能となったことにより、私たちの働き方、生活意識にも変化が生じています。これまで長年変えられなかった長時間労働、通勤地獄、家事、育児の偏在による女性の社会進出の遅れ、地方の過疎化などの諸問題が、発想を柔軟にしたら一気に解決でき、脱炭素化社会、デジタル化社会に向けた取り組みの中で、地球にも個人にもよりストレスの低いシステムを近々実現できるかもしれません。これだけで、少なくとも 10 の SDGs に同時に進展がみられることになります。

先行きの見えない不透明な時代にあって、**SDGs は私たちをよりよい地球、社会に導いてくれる羅針盤**です。コロナ禍からの復興は、それ以前からの様々な社会経済のひずみをもっと根本からただす機会にしないとはいけません。国連では最近、"Build back better"、「より良く復興する」のではありません、コロナ禍をきっかけに**"Build forward better"「社会を前進させよう」**と呼び掛けています。

Build Forward Better, Together! 皆さん、力をあわせて、一緒に未来を切り開いていきましょう。

先般、一橋HQウェブマガジンで大月副学長と対談させて頂いています。その記事もあわせご覧になって頂ければ幸いです。皆様、この度はご卒業、誠におめでとうございます。